

2004年3月30日のラーマナヴァミの御講話

人の姿をとったヴェーダの教え

砂糖よりも甘く、カード（擬乳、ヨーグルトのようなもの）よりも味わい深く
実に、蜂蜜よりも甘いものがラーマの御名である
この甘い御名を絶えず繰り返すことにより、神性なる甘露そのものが与えられる
したがって、絶え間なくラーマの御名を憶念せよ

（テルグ語の詩）

ヴェーダは感銘深く、広大な無限の英知の真髄です。トレターユガでは四つのヴェーダが、肉体を持つ姿で、ラーマ、ラクシュマナ、バラタ、そしてシャトルグナとして具現しました。リグヴェーダがラーマの姿をとったのに対して、ヤジュルヴェーダ、サーマヴェーダそしてアタルヴァナヴェーダはそれぞれラクシュマナ、バラタ、シャトルグナの姿で具現しました。

マントラの神性なる力

ラーマはリグヴェーダを象徴します。ラーマはマントラスワルーパ（マントラの化身）です。ラクシュマナはマントラドラシュタ（マントラを憶念する者）であり、ラーマの教えを実践しました。ラクシュマナは忠実にラーマに従いました。彼はラーマの御名をターラカ（解脱を与える）マントラだと考えていました。事実ラクシュマナは、ラーマを、母親、父親、グルそして神、すなわちあらゆるものだと思っていました。バラタはサーマヴェーダの具現であり、バーヴァ、ラーガ、ターラ（感情、旋律、リズム）をもって絶え間なくラーマの御名を唱えていました。バラタがニルグナの礼拝（形のない神を崇拝すること）を行っていたのに対して、ラクシュマナはサグナの礼拝（姿をとった神を崇拝すること）に喜びを感じていました。アタルヴァ ヴェーダは、三人の兄に従い、世俗の世界だけでなく、感覚の領域をも征服したシャトルグナとして具現しました。このように、ヴェーダは最も貴重なメッセージを人類に伝えるためにトレターユガに具現化したのです。ヴァシシュタとヴィシュワミトラの二人の偉大な賢者は、四つのヴェーダは、ラーマ、ラクシュマナ、バラタそしてシャトルグナとして人間の姿で誕生したと世界に宣言しました。ダシャラタ王が獲得したすばらしい功績の結果として、四つのヴェーダが王の息子たちとして生まれて来たのです。誰かが賢者ヴィシュワミトラにヴェーダについて質問をすると、「四つのヴェーダすべてが世界に理想を確立するため、ダシャラタ王の四人の息子として具現化したのだ」とヴィシュワミトラは答えました。したがって、ヴェーダには形がないのではなく、形はあるのです。

ヴェーダに含まれているマントラには計り知れない意義があります。ラークシャサ（悪魔）たちがヴェーダのマントラの詠唱を止め、地上の正義と真実を破壊しようとしていることに気付いたとき、賢者ヴィシュワミトラは、悪魔の力を破壊し、世界に平安を打ち立てるため地上に降臨された神なる力の象徴であるラーマとラクシュマナの助けを求めました。賢者ヴィシュワミトラが教えたマントラで、ラーマとラクシュマナはラークシャサたちを絶滅させたのです。この出来事は、ヴェーダのマントラで人は自分の悪魔的な性質を破壊することができるということの象徴です。マントラを唱えることにより、トレターユガの人々は自分たちの悪魔的な性質を滅ぼしました。ヴェーダの神性なる力を象徴して、ラーマ、ラクシュマナ、バラタそしてシャトルグナは悪魔の力を滅ぼし、世

界に神性なる力を育みました。したがってこの四人の兄弟は、姿をとった神という側面を具体的に示すことにより、ヴェーダが至高の教えであることを確立したのです。それぞれのマントラには形があります。またそれは、独自の意義をもっています。形を憶念しながら唱えるとき、マントラは人を自己完成へと導きます。ヴェーダの教えを会得した先見者は、暗闇の領域を越え、十億の太陽の輝きを放つ神を我は見た、と宣言します。先見者や賢者は無知の暗闇を超越し、神の光輝を心に描きました。彼らはマントラを唱え、神の姿を憶念し、ヤグナ〔靈的儀式〕を執り行い、平安と至福に到達しました。彼らはトレターユガの人々の平安と繁栄を確保するための儀式において、マントラ、タントラ〔マントラを使うための手段と方法〕そしてヤントラ〔道具〕を用いました。マントラの助けによって彼らは悪魔たちを鎮め、神々の支配を確立したのです。

解脱のためのナーマスマラナ

しかし、カリユガの人々はこれらのマントラを忘れてしまい、その結果、カリユガはまさにカラハユガ（不協和と対立の時代）となってしまいました。兄弟たちでさえ互いに口論し合っています。彼らは同じ家族として暮らし、一緒に食事をしているのにもかかわらず憎みあい、対立しています。人々が悟りを得るために四つのユガそれぞれに異なった方法が示されました。

クリタユガには瞑想が解脱のための第一の手段であるとして与えられたのに対し、トレターユガではヤグナを執り行うこととマントラを唱えることが、同じようにアルチャナ（神への礼拝）がドワパラユガにおける解脱のための第一の方法でした。しかし、カリユガにおいてはナーマスマラナが最良の方法なのです。カリユガの人々は厳しいサーダナを行う体力も能力ももっていないため、ナーマスマラナを行うことが推奨されました。

カリユガでは解脱のために神の御名を唱えることに優る有効な手段はない

『ラーマーヤナ』は単なる物語ではありません。それはヴェーダの直接的な教えを含んでいます。ラーマはヴェーダの英知を象徴しています。ラーマはブラフマ グニャーナ（ブラフマンの知識）を象徴するシーターと結婚しました。シーターが悪魔の軍勢に連れ去られたとき、ラーマとラクシュマナは必死にシーターを探します。『ラーマーヤナ』には何千もの詩編が含まれています。『ラーマーヤナ』のすべての詩篇を覚えるのは不可能であるため、賢者たちはラーマの御名を唱えることを勧めました。

ヴァシシュタの弟子が、どんな神の御名を唱えれば良いかと尋ねると、「ラーマの御名を唱えればそれで十分である。ラーマの御名はおまえをラーガ（執着）とローガ（欲望）から解放するであろう」とヴァシシュタは答えました。私がしばしば学生たちに言うように、ラーマの御名には二つの音節、「ラ」と「マ」があります。このふたつの強力な音節はヴィシュヌ神とシヴァ神の御名に由来します。

「ラ」はアシュタクシャリ（八つの音節）マントラ「オーム ナモー ナーラーヤナーヤ」から来ています。それはアシュタクシャリマントラの息吹です。同様に「マ」はパンチャクシャリ（五つの音節）マントラ「オーム ナマ シヴァーヤ」の魂そのものです。アシュタクシャリマントラ「オーム ナモー ナーラーヤナーヤ」とパンチャクシャリマントラ「オーム ナマ シヴァーヤ」はそのマントラの言葉から「ラ」や「マ」を抜いてしまうと意味のないものとなってしまいます。「ラ」がなければアシュタクシャリマントラは「オーム ナモー ナーヤナーヤ」となり、意味を成さなくなります。同様に「マ」のないパンチャクシャリマントラは「オーム ナー シヴァーヤ」となり、吉兆なものではなくなります。ヴァイシャナヴィテとサイヴィテ（ヴィシュヌ神とシヴァ神を崇拝する人々）の両者にとってラーマの御名は息吹なのです。

トレターユガの時代、賢者と先見者たちがラーマの御名を唱えていると、ラーヴァナやクンバカルナ、そしてその他の悪魔たちは賢者たちの道に障害を設けようとしていました。彼らはブラフマ グニャーナを象徴するシーターを誘拐すれば、ラーマはその力を失ってしまうだろうと考えたのです。ラサ（甘さ、喜びの真髄）がなければサトウキビはその甘さを失ってしまうのとまったく同じように、英知がなければ神の御名はその威力を失ってしまいます。ハヌマーンはこのラサをラーマのもとに取り戻す決意をし、ラーマラサ（ラーマの御名という神の甘露）を飲んで喜びを得ました。トレターユガとドワバラユガの人々はラーマの御名をあらゆる甘さの真髄であると考え、その甘露を味わったのでした。今日人々は、ラーマの御名という美味の霊的な甘さを味わう代わりに、世俗的な甘さをむさぼり、糖尿病を患う危険に自らをさらしています。世俗的な甘さが病気を引き起こすのに対して、ラーマの御名という美味の甘さはすべての病を取り除きます。太古のインドでは、牛飼いや羊飼いたちでさえ、牛と羊の世話をしている間に神の御名を唱えていました。太古の時代には病気はあまりありませんでした。ラーマ、ラクシュマナ、バラタそしてシャトルグナは世界を病と苦しみから救うため、ヴェーダのマントラの輝かしい力を伝えたのです。

決してヴェーダの教えを無視してはならない

ラーヴァナの後、マンドーダリーは、夫であるラーヴァナを救うために大変な努力をしました。マンドーダリーは夫に賢明な忠告をしましたが、ラーヴァナは彼女にまったく注意を払いませんでした。夫が邪悪な道を取ったとき、徳高い妻は夫を正しい道にとどめるために彼の賢明な大臣として振る舞います。マンドーダリーはそのような妻でした。バルヤ（妻）は夫に世俗的な喜びを与える者ではありません。英知と正義の道へと夫を導くことで夫のために役立つ者のことです。マンドーダリーは夫のたどる道を正そうとした真の妻でした。シーターもまたラーマに賢明な助言を与え、すべての悪魔を滅ぼすことはしないように忠告しました。彼女は邪悪な行いをした者たちだけが罰せられるべきだと示唆したのです。正義は一族すべてを滅ぼすことにはありません。女性は偉大です。なぜなら、女性は正しい道を男性に示すからです。事実、女性は世界の英知の光です。ですから、女性は保護と尊敬を受けるに値するのです。シーターはグニャーナ タトワ（英知の原理）を象徴します。シーターはラーマに、善良さは階級や信念、社会にかかわらず普遍のものであると言いました。シーターのような女性のおかげで男性は人生において進歩を遂げたのです。

この世界にはおびただしい数の種が存在します。そのいずれもが神の創造を満たすための明確な目的をもっているのです。あるものは他よりもより美しく見えるかも知れません。雌牛と雄牛のどちらがより美しいかと言うことはできません。しかし、美德は身体的な美しさよりも重要です。学生たちは世の中の善と悪を観察して、善を選ぶための識別心を育てるべきです。彼らは美德を培うためにたゆまぬ努力をしなくてはなりません。幼いころから良い性質を培い、善良な人格を育てねばなりません。どこへ行こうとも、人格が一番重要です。学生たちが善良な人格を育てるなら、国全体が善良で偉大になるでしょう。どの人においても、その人に偉大さを与えるものは美德です。ラーマはその真の美德ゆえに『ラーマヤナ』の中で輝いています。美德は机上の学習よりも重要です。

教育と知性があるにもかかわらず
人はその卑しい心と邪悪な性質を放棄しようとはしない
人は真我の知識をもってはいない

現代教育は完全な英知へではなく、論争へと導く

(テルグ語の詩)

学生たちよ！ 少年、少女たちよ！

あなたたちは完全な英知を獲得する努力をしなければなりません。神からの贈り物である目、耳そして舌を正しく使わなければなりません。この三つをコントロールできる人は誰でも、偉大さを獲得するでしょう。ですから、正しく視る目、正しく聴く力、正しい話し方を培いなさい。常に甘く、やさしく話みなさい。これら三つの美德を培う人は誰でも、確実に神性へと導かれることでしょう。これがあなた方の教育の第一の目的であり、必須の基本なのです。これらの美德を欠いた者たちは実質的には悪魔です。これが『ラーマヤナ』の真髄とメッセージです。四つのヴェーダとその他の聖典は人々がこれらの原理に従うことを勧めています。

親愛なる学生たちよ！ 決してヴェーダの教えを無視してはなりません。ヴェーダの教えは人類の解放と救済のためのものです。あなたたちの生活の中でその教えを実践みなさい。

(バガヴァンは「ラーマ ラーマ ラーマ シーター…」のバジャンでご講話を終えられました)

翻訳：サティア サイ出版協会 出典：Sanathana Sarathi April 2004